

ローデ・シュワルツ主催 高速デジタルセミナー2026

- お申込み先着40名様となりますので、お早めにお申し込み下さい -

日 程：
2026年11月6日(金)
9:30 ~ 10:00 受付
10:00 ~ 17:00 セミナー
17:00 ~ 18:00 懇親会

場 所：
ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社
本社オフィス（大崎）

ー 生成AI時代の通信容量拡大を支えるデバイス評価の最前線 ー

生成AIの普及に伴い、通信容量の需要は爆発的に拡大し、光通信送受信モジュールのさらなる高周波帯利用が不可欠となっています。本セミナーでは、各分野のエキスパートの方々にご登壇頂き、ディエンベディング技術の最新実践例、高速デジタル回路におけるEMI対策と評価、そしてミリ波帯で無視できない影響を及ぼす誘電材料や導電体表面の状態など、物理層からのアプローチによる品質向上策についても深く掘り下げます。

参加費無料
事前登録制

お申込みはこちらをクリック
or QRコードからお申し込みください



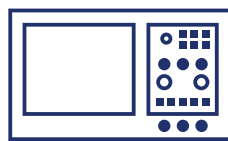
技術セッション

村田製作所 坪内氏によるノイズ対策に関する講義をはじめ、協賛企業やローデ・シュワルツのエキスパート・エンジニアによる技術セッションは、市場動向の理解だけでなく、実務に役立つ内容となっております。



ソリューション展示

ローデ・シュワルツおよび協賛企業による各種ソリューション展示を予定しております。この機会に最新のソリューションを是非ご覧ください。



ご来場特典

ご来場いただいたお客様には、以下の特典をご用意しております。

- ・ 昼食をご用意しております。
- ・ セミナー終了後に懇親会を催します。お客様同士、あるいは協賛企業とのビジネスネットワーク構築の場にご利用ください。



タイムスケジュール

時 間	
9:30 - 10:00	セミナー受付
10:00 - 10:15	オープニングセッション
10:15 - 11:00	高速デジタルインターフェースの特性評価技術：ディエンベディングの実践と110 GHz測定への応用 ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社 横溝 明大 AIデータセンター向け高速インターフェースの進展に伴い、コネクタや基板、パッケージを含む広帯域な特性評価の重要性が高まっています。一方で、実際の測定ではフィクスチャやプローブの影響が含まれ、DUT本来の特性を正確に把握することは容易ではありません。本セッションでは、ネットワーク・アナライザを用いたディエンベディング技術に焦点を当て、フィクスチャ影響の補正手法や妥当性評価について解説します。さらに、110 GHz測定への応用事例を通じて、真のDUT特性を取得するための実践的なアプローチをご紹介します。
11:00 - 11:45	昨今のDC需要に伴う高周波帯域光送受信デバイス向けの評価装置としての提案 シンクランド株式会社 宮地 邦男氏 昨今の生成AIの出現に伴い、ここ数年で通信容量の需要が急速に拡大しています。結果、現在光通信用送受信モジュールの更なる高周波帯利用は必須となります。本セミナーでは、以前よりローデ・シュワルツと取り組んできた周波数特性評価装置の現状を紹介します。
11:45 - 12:30	高速デジタル通信を支える材料の重要性和最新の誘電率・導電率評価方法 ネクステム株式会社 益村 友之氏 電気信号通信の開始から約200年、通信は複雑・高周波・広帯域化を続けています。特にミリ波帯では、誘電材料と電気信号の相互作用や、導電体表面状態による導電性の変化が無視できない影響を及ぼします。本セミナーでは、高速通信デバイスに使われる誘電・導電材料に着目し、高速デジタル通信の品質を向上させるための材料評価の重要性和、測定アプローチについて詳しく解説いたします。
12:30 - 13:30	昼食/ソリューション展示（お弁当をご用意します）
13:30 - 14:15	デジタルICの電源周りのノイズ対策 株式会社村田製作所 坪内 敏郎氏 近年の高速デジタルICでは、電源電圧や信号振幅の低下により、電源電圧の変動が回路動作に与える影響が大きくなっています。電源品位（Power Integrity：PI）の悪化は、信号品位（Signal Integrity：SI）にも影響し、信号波形の劣化や誤動作につながる可能性があります。本セミナーでは、デジタルICの電源ラインに着目し、電源電圧を安定化し、ノイズを抑制するための考え方や対策について紹介します。また、スマートフォンやAIサーバにおける電源設計の考え方についても紹介します。
14:15 - 15:00	オシロスコープを活用した効率的なEMIデバッグ手法 ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社 関野 敏正 EMI対策において、スペクトラム・アナライザやEMIテスト・レシーバでの測定結果からノイズ源を特定する作業は、時間とコストがかかる困難なプロセスです。本セミナーでは、最新のオシロスコープを活用し、時間軸と周波数軸をシームレスに連携させた効率的なデバッグ手法を解説します。シングルコアADCによる歪みの排除や、高速FFT、ゾーントリガ、スペクトログラムなどの機能を駆使し、間欠的なノイズの捕捉からノイズ経路の特定、対策前後の定量的な比較まで、ベンチトップで完結させる手法を具体的に提示します。暗室への往復回数を最小限に抑え、開発サイクルを劇的に短縮するための実践的なアプローチをご紹介します。
15:00 - 15:15	休憩/ソリューション展示
15:15 - 16:00	高周波測定を安定させる3つのTips - ケーブル・コネクタ管理からネットワーク・アナライザ R&S ZNA67の最適化まで ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社 石原 篤 ネットワーク・アナライザによる高確度なSパラメータ測定を行う上で安定した結果を得るためには様々な注意が必要です。特に高周波帯域（40 GHz以上）ではケーブルの位相安定性やコネクタの嵌合状態、そしてVNA自体の受信感度・損失特性が不確かさに大きく影響を及ぼします。本セミナーではVNAを使用するエンジニアを対象に測定の安定性と確度向上のために長年の経験に基づく3つの実践的なTipsを解説します。 1. ケーブル位相安定性の理解 2. RFコネクタの正しいケアについて 3. ネットワーク・アナライザ R&S ZNA67のフルスパン測定での設定の最適化 測定時の不確定要素として見落としがちなケーブル・コネクタの要因を理解していただき高周波帯域での測定においてZNA67の設定を意図的に変更してダイナミックレンジを最大化する方法をご説明します。
16:00 - 16:45	高速デジタル通信を支えるジッタ性能評価と最新のミドルクラスネットワークアナライザのご紹介 ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社 大坪 樹生 高速デジタル通信の高速化に伴い、クロックの位相雑音(ジッタ)による信号品質劣化への対策が重要になっています。特に高周波帯域では、ジッタ成分の増加がアイパターンを閉じさせ、通信エラー発生率に大きく影響します。本講演では、高精度な位相雑音・ジッタ解析を実現する位相雑音アナライザ/VCOテスト R&S FSWPを用い、高速通信評価に求められる測定性能についてご紹介します。加えて後半では、最新のミドルクラス・ベクトルネットワークアナライザ R&S ZNB3000について、操作性や測定効率の向上を中心にご紹介します。
16:45 - 17:00	Q&Aセッション
17:00 - 18:00	懇親会